
おれたち演劇部！！

柊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おれたち演劇部！！

【著者名】

【著者名】
柊

【著者名】
N8041Y

【あらすじ】

演劇しない演劇部がめずらしく演劇しようとする話

お待たせしました演劇部！

どうもいきなりですが演劇部です。

いつもの現状確認タイムスタート

部室の扉をあける 中に入る もう板倉と部長がいて、遅いと怒られた（なんと入部してから2週間初めての真面目な部活となー）（部長がいきなり言いだした） 今ここ

ただ今〇〇 THE イス

今日はイスを横一列に並べ、部室に置いてあるホワイトボードとやの前に立ち説明をしようとする部長に向けられていた。

「一体何をするんですか部長…」

思わず興奮してしまった俺

「それを今からこいつて言ひてんでしょうが…」

部長に怒られてしまった

「まったくほんとだよ、それに興奮してると顔が気持ちわ～ゲファンゲフン」

せきが明らかにわざとだったよ、ムカつくのがわかつてやつてるのであえてのスルー

「それじゃあ説明するけど今日はひょっとしたオリジナルの物語の台本を作つてもらうわ」

「それって結構難しくないですか？」

うんうんそうだと思つ

「確かに…」

あ、板倉の声初めて聞いた気がする。（ちなみにひょっとゲームやつてた）

「別に今すぐつてわけじゃなくつてね、一週間ぐらいかけてじつくり作つてもらつてもかまわないしそれはどうでもいいけどこつからが詳しい条件ね、その一必ず面白おかしいハッピーエンドにすること、例えば何かをモデルにしたとしてシェイクスピアの四大悲劇

でもね、その一 必ず役の数は五人にしてこと、これは一番優秀だつた作品はみんなで演じるからね、期限は一週間以内にか文句あるでもある?」

なるほど、なんか行けそつた気がしてきたぞ。

「すいません、あまり関係はないのですがなぜ今になつてなのでしょつか」

「まあそれも「もつともよね、じつはね」

おお! 一体どんな秘密が隠れていのだらうか!

「それは……」

いやがおうにも皆は期待し、緊張感が高まる中に出た答えとは…

「何となくよ」

シーンとした空氣。

「ええーーー!」

あまりの驚きに席を立つた俺

「な、なるほど」

実は納得してなさげな颯太

「この引きでそれはないわーーー」

まさかのことに思わず突つ込みを入れる鬼頭

「… (ちよつと引きぎみ)」

ちよつと引いた板倉も合わせてそうずつこけだつた。

「なんかもつとこの一週間みんなの結束力を試していったのよ的なきれいな落ちはないんですか!」

うんうんとこの時ばかりはみんなの気持ちが一致した。

「私の気分と言い換えてもかまわないわ」

「こっちがかまうんですが…」

「ああもう、うだうだうつさいわね、時間無くなっちゃたじやないの! じゃあ宿題頑張つてね!」

まだ釈然としないんだがなあ

「はい解散!」

お待たせしました演劇部ー（後編）

今日も頑張つてこー
お便り待つてまーす

これの前に短編でキャラとか紹介してるのでそちらもお願いします

どうもいきなりですが演劇部です。

夜の六時、今は自分の部屋で演劇部の宿題に悪戦苦闘中。
「おもしろおかしくハッピーエンドで役の数五人ねー」
やつぱり結構むづくない？

「あ、そうだ」

こんな時はみんなに相談だよね

「えーっとまずは誰からにしようかなーっと」

世間話に織り交ぜてメールでみんなに聞いてみた。

二十分後……

結果発表タイム、パチパチパチ、という自演の後。

颯太＝もう出来たと言うのであらすじを送つてきたのだがくそ面目な文学すぎて、これ条件に合つてないよ、と返しておいた。

板倉＝返信なし

鬼頭＝何を言つてもふざけた返信ばっかで、情報収集にかかつたほとんどの時間をこいつに費やした（十五分近く）結果得られた情報はできてないということだけ。

俺＝何も得られてない

「何の意味もねえ！」

一体俺は何をしていたというんだ、何の意味もないじゃないか。

「落ち着けもつとクールになれ俺！」

よし何とかなつたぜ、これは自分の力ですべてを乗り越えろという神からの啓示のはずだ。

「そう考えるとすらすらと考えが思いつくーー」

サラサラサラーーとな。

「何だこれは！自分で驚いてしまつほどの出来栄えーー」

俺の才能よなぜもつと早く開花しなかったのだろうか。

「この喜び誰かに伝えずしておくべきか！」

ピポパピボパーつてね。

「一体こんな時間に何用かしら？ 俵君、私すべりじくへ眠いんだよねー」

ちなみに今夜中の一時、ちょっと怒り切るのもそのせいだが俺としてはどうでもよく、この話を誰かに聞いてほしかったのである。

「部長ー。」

「ちょっときなり大きな声出れないでよねー。」

「あ、すいません。でもそんなこいつたどりだつていいんですけど部長！」

「私としてはそこそこ重要なんだけどなー。」

小さい声でなんか言つているが聞こえなかつたので無視。

「では本題に行きますよ部長！」

ペラペラペラーっとすでに作り上げた台本を説明までしてこの一大ストーリーの説明をした。

四十分後……

「ああーまあだいたいわかつたわよ。」

「で、感想はどうですか？」

「一言で言わせてもらひつとね。」

ドキドキ ドキドキ

「没」

「なんでえーー？！？！？！？」

意味がわからないよ！

ちなみに俺の作った物語のあらすじとは。

まあだいたいを簡単に説明させてもらひつと、めぢやめぢや壮大な西洋風のファンタジーな桃太郎だな。

ドラゴンとかを味方につけ、魔王軍と戦うーみたいな感じなんだが何がいけなかつたのだろうか？

「お、お願ひします何がいけなかつたのでしょうか」

ちょっと声が裏返つたが気にするな。

「全て何もかもが面白おかしくハッピーホンドつていみで私いつた

つもりなんだけど

「だからそうしましたけど?」

「はあ~、あなたここまで言つてもわからないの?」

「はい、そうですけど?」

結果魔王軍に勝ちハッピーハンド、何処に不幸な人たちがいる?
「いるじゃないの、惨殺されまくつてる不幸なのがたくさん!」

「は?」

おつと、俺としたことが敬語を忘れてしまつたようだ。

「だーかーら!魔王軍よ ま お う ぐ ん!日本語わかります
か?」

「ええええええ!だ、だつて魔王軍は悪であつて退治されてこそ
のハッピーハンドじゃ…」

「その考えが甘いのよ、私が一年のこりと一緒に

まず去年もそんなことやつてたのかと。

「まつたく、私のしていることも数少ない伝統なのよ。まあそれは
いいとして、例えばあなたが魔王…は言こすぞとして身近なところ
でイニシヤルGになつたと考えてみなさい」

「イ、イニシヤルGに?」

「人が勇者、Gが魔物と考えてね、Gは生きるため仕方がないから
人里にすむわ」

まあ考えてみればそうだな。

「でね、家なんて概念はないんだからたまたま入つたところでいき
なり殺虫剤かけられたりつぶされそうになつたりとたまたまんじ
やないわよ、人からすればGは倒すべきものなんでしょうけれどね
「確かにそうですね…」

「でも魔物ならもうちょい頭もいいから」Jでは終わらないわ
「それで町や村を襲うんですね…」

「そうよ、あなたたつて何かやられたらやり返したくなるでしょ、
その積み重ねで悪と認識されて倒されたとしたらどうなる?」

「それはハッピーハンドではなくなると思います」

「そうこう」と

「なるほど

最初は納得なんてとても出来なかつたがよくやく言われてみれば納得のいくことだ。

「あああああー！」

「何ですかうみることですよ部長ー！」

「もうこんな時間じゃないのー早く寝なきゃー」のバカーー。いつのまにかもう三時だつた。

「じゃあもう切るわよー！」

「待ってください次の作品へのヒントを何かー！」

「もううつせいいわね、はこじゅあねー！」

頑張らNZHIGHTE 演劇部--- (後書き)

短編のまつも読んでくれるといれしいです

まだやらないよ演劇部！

「どうもいきなりですが演劇部です。

そしていきなりですが眠いです。

いきなりですがテンションダダ下がりです。

なぜかつて？

それはね。

授業中に物語かけてたら怒られちゃったんだよ。

とうせんだよね、馬鹿だよね、罵ってくれてもいいよ。

「なにぼーっとしてるんだ、死ぬか部室行くかさつさと選べよ人面魚」

ほんとに罵つてほしかったわけではないんだよ鬼頭。

「ああ行くから待つてくれよ」

というわけで部室へ行くのだが。

…… 尺の都合上割愛……

扉の前で俺を先頭に後ろに春風颯太（僧侶）、鬼頭廉（アサシン）の体制で魔王城に突入（というわけではなく（昨日の影響が脳内に響いている）、普通に部室に入る俺たち）。

「あれ？ 誰もいないなんて珍しいな」

と、思つたら

「……俺がいる」

扉で隠れていたところから急に出てきたよ板倉怖！

真のアサシンはこいつかもしれん。

「なんでそんなとこから？」

あ、たしかにナイス疑問だぜ颯太。

「……日光にあたりたくないくて」

「よし部長いないし例のやるかあれ」

「ああ例のだね？ 夏」

「じゃあ俺も入らせてもらつよ」

「…俺も」

よし、みんな乗り気だしあれとやらの説明をしておくか。

これにいくら部長がいないからといって眞面目な颯太が参加するのか、その理由はルール説明ではつきりする。

これからやるのはただのゲームそれも大富豪といふいたつて有名な遊びだ。

八切りなどの地域によって違うルールがあるが、ここに適用されるのは、七渡し　八切り　十捨て　ノバックである。

重要なのは罰ゲームというよりも優勝者への褒美である。

駅までの帰り道、優勝者には何でも命令できる特権がついてくる。駅までの十五分ほどの間には青少年たちの空腹を刺激するものがたくさんある。

つまりは言わずともわかるということだ。

一回の勝負ですべてが決まるわけではなく、今回ならば部長が来るまでである。

「まあ始めよひじやないか」のゲームをなあ

スタート！――！

と同時にクライマックス

手札枚数

颯太	二枚
鬼頭	四枚
板倉	三枚

場のカード　颯太の出した三が三枚スペード以外（しょっぱな俺が出したから）

俺　十六枚（スペニベらいしか出してない上に七渡しされた）　そ

んで今おれの番（順番は俺
颯太
鬼頭
板倉）

「どうせ人面魚はまた出せないんだろう？」

「へへへへへ、鬼ぐぢつてもひつては困

懸念せずに困っていたとしても?」

「うん」

「もうじやないの?」

「… そうじやなかつたのか」

「ええー」

「ユーニット」な形があるんだな?

卷之三

「モナリザ」の出典

備の出でたは

「ノンビリ」

なんだとこ！

「とこいりとせりの後が、せりーまなかー。」

「そしてこの後は、六枚革命を」（十を四枚+三=一九=一枚）「ふつ、みんなの絶望が手に取るように分かるぜ！」
「いらないカード ハースやK Qなどをすべてしていくそして残り一枚」というところで。

バンツ

急に扉が開かれた。

「突然だけビ今日はもう部活終わりね！遊んでないで早く帰るわよ

「そ、そんなあー」

「一七一」

みんながガツッポーズをとる音が聞こえた。
振り返つてみてみると。

「ヒュー」
「
口笛吹いてた。

「はい、解散！」

まだやらないよ演劇部ー（後書き）

なんか口うりつかめてきた気が！
短編のほうもお願いします

墨口からがござる演劇部（前書き）

今回あんまりおもしろくないです。
お詫びします。

里口からがんばる演劇部

「いつもこれなりですが演劇部です。
今の状況はとこりと。

簡単に言つて、みんな正座して部長に見られてる。

おと詳しく述べてもひつと、おと反省の気持ちを持つて
床に正座し、そこをイスに座り足を組んだ女王様、おとと間違えた部長が空氣も凍るような視線で射ぬいています。
なんでこいつなつてしまつたんだろ？

……おとと前……

「つこーっす、

自分で里口で態度が軽くなつて言つてると困つ。

「あれ、また部長いねーなー」

「あ、ごめん」ごめん遅れちゃつた

と、思つたら来た。

「じやあ今日の活動内容はどうあえずできた物語の発表かな？」

「「「へ？」」「

空氣が凍つた。

……おとと後……

「ああ、いつもこんななんだつたよ。
で、今に至ると。

「で、やらなきやこけない」とあるのにあんたたちは私がいない
からつて遊んでいたと？」

「 「 「 返す言葉もござこません」 」 」

「 まつたく、あんたたちはねえ
何か溜息つかれた

「 せめて春風、あんたには物語作るぐらいしてほしかったなー
ふんつ、言われてやんの口うるの行いだぜー（ある意味）

「 僕もだけどねー」

え？ なんでおれ？

「 あーんな大ヒント上げたのにまだ描き終わってないの？」

「 う、すいませんでした」

「 まあいいわ、もう機嫌悪いからかーえる
なんか怒られた時の子供みたいだ。

時間があるからってこれは自分がみじめだ。
やるときやもつと頑張らないと。

「 はーい、かいさーん」

でも明日からにしようかな？

明日からがんばる演劇部（後書き）

次からもっと頑張る。
でも明日から。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8041y/>

おれたち演劇部!!

2011年11月26日21時51分発行